

神聖別儀式

I O S 儀式魔術文書



THE OFFICIAL ORGAN
OF

I O S

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I O S

THE TEMPLE CONSECRATION CEREMONY FOR GROUP WORKING
I O S RITUAL MAGIC WORKING

目 次

第 1 章 解 説

- 1 司官の配置
- 2 儀式場の準備

第 2 章 神殿聖別儀式

L B R P / L B R H

浄化 / 聖別

四方位の開放

四門の開放 / 四壁の設定

四聖獣の宣言

聖なる象徴の開示

神殿設定の宣言 / パスワードの設定

上位神殿との接合

大地への祈り

第 3 章 閉 鎖

浄化 / 聖別

諸神への賛辞

四壁の開放 / 四門の閉鎖

四方位の閉鎖

L B R P / L B R H

All rights reserved. Copyright C 1994 by I O S

No part of this text may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical or spiritual, including photocopying, recording, psychometry or by any information storage and retrieval system, without permission in writing from the Order.

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が比較的簡易な準備で行えることを前提に作成した。従って、《黄金の夜明け》団などで執拗なまでに追求された儀式のシンメトリーや細部の精密さに欠ける部分があるかもしれない。しかし、本儀式においては、豊潤な虚飾より実践的簡潔さを、正確で冗長な記述より、瞬間の真実と実効性を追求した。

なお、本儀式は魔術神殿として使用する場所に、アストラル神殿を降下させる儀式であり、1回行えば良い。次回からは、より簡略化された神殿設定を行う。

1 司官の配置

本儀式に必要な最低の人数は5人である。それはハイエロファントと四方位の司官の定数が5人だからだ。5人以上は、何人でも可能であるが、この儀式が神殿の聖別を意図している以上、収拾できないほどの多人数は適当ではない。(最悪の場合は、ヘゲモンがハイエロファントを兼ねると4人でも実施できる。)従って、儀式の準備において、最も大切なのは、ハイエロファントと四方位の司官の選定である。

次に述べるのは、《神殿聖別儀式》の司官に充当する人物の理想像である。作業を主催する仲間の数が少ない場合は、性格の適合どころか、男女の別さえ該当する司官を集められない場合があるだろう。そのときは適宜、最良の選択をするように心がけなさい。また、司官は固定せずに半年かそこらで配置換えをするのが望ましい。この配置換えを定期的に行って、《黄金の夜明け》団のハイエロファントに該当するハイエロファントの配置が、数年たてば訓練を受けた全員に回るよう配慮する必要がある。

可能ならば、法衣を纏う。通常は、位階の指定色、《黄金の夜明け》では第1団は黒、第2団は白であるが、特殊な神殿を用いる場合はこの限りではない。

《ハイエロファント = 霊 = ラー・ホール・クイト神》

男性が望ましいと言われるが、次の条件を満たせば男女どちらでも良い。かれは作業の場における人間及び非・人間双方の霊的要素を制する能力が要求される。それ故に活動的で大胆な性格が要求される。一例として言えば、肉体的に強壮で外向的な人間が相応しいだろう。この司官は儀式の指導的役割を果たし、動き回り、少しも憶することなく指示を出さねばならない。

《ヘゲモン = 風 = ネフティス女神》

東は「調和と癒しの門」である。この性質を体現した人物を当てるべきだ。バランスの取れた人格をもち、他人の痛みに敏感な者が良い。もし、ヘゲモンがハイエロファントを兼ねる場合は、ハイエロファントに適した人物を優先する。

《ダドウコス = 火 = セト・テュフォーン神》

南は「愛と勇気の門」である。この性質を体現した人物を当てるべきだ。理想的には、無鉄砲さとは無縁な寡黙なタイプの勇気を持ち、人種や国籍、信条に偏見を覚えない静かに溢れ出すような愛を持つ人物が良い。火の蛇をうちに宿した人物を探すこと。

《ハイレイア = 水 = イシス女神》

西は「力の門」及び直観的な「内的知識」への扉である。同時に四大のうち水の間でもあるので、月の力を引き寄せる女性が相応しい。彼女は感受性が強く、想像力に溢れ、視覚化に秀でた人物であるべきだが、支配欲の強い人物は相応しくない。

《ストリストリア = 地 = オシリス神》

北は大自然と惑星の諸力について、強い共感を覚える人物になるべきだ。年経るごとに死と復活を体現し、忍耐強い人物を選ぶ。

《儀典司官 = トート神》

儀式文書を携え、儀式の節目に発言し、不測の事態に当たっては司官及び参加者を誘導する。その役目は儀典官 (Protocol)、後見人 (Prompter)、先唱者 (Precentor) ととも呼ばれるが、正式には儀典司官 (PROTOMYSTA) である。

《四聖獣の守護者 = ケルビム》

基本的には各方位の司官の性格に準ずるが、男女の区別はない。人数が足りないときは、各方位の司官が代行する。

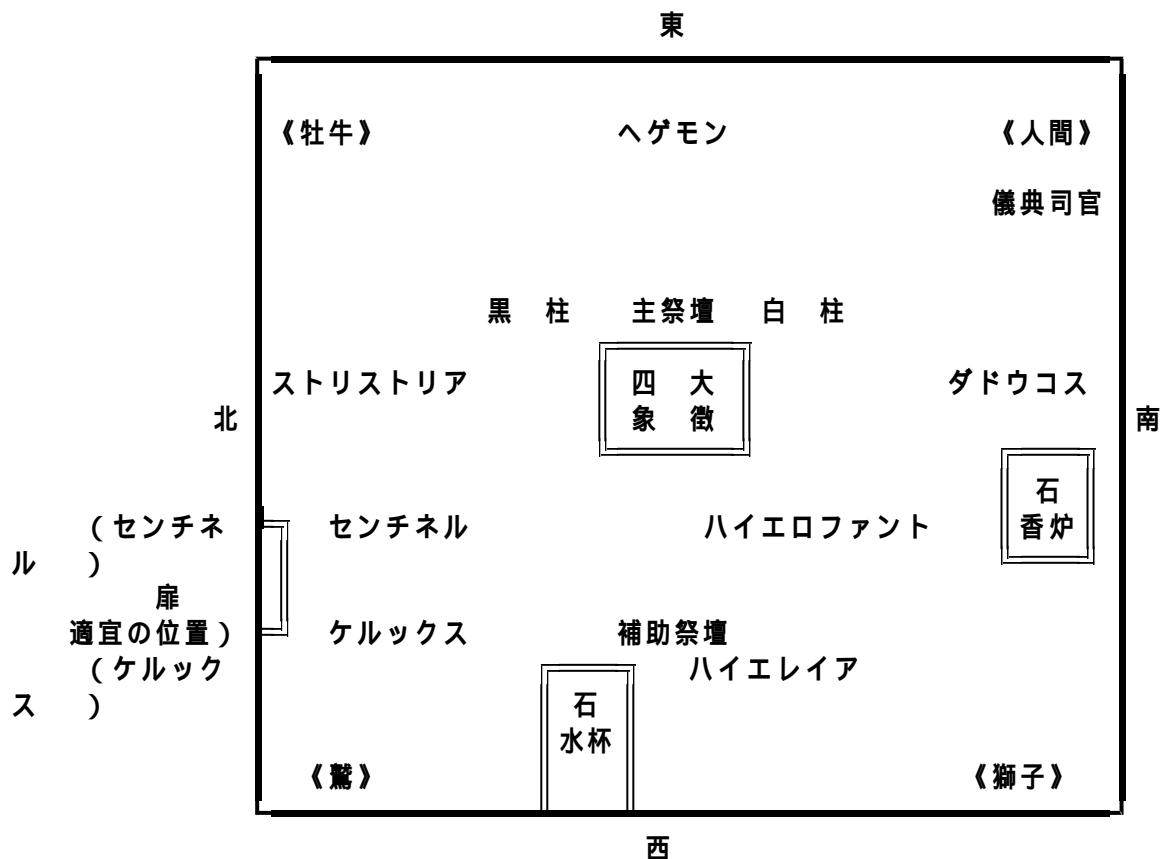
《ケルックス = アヌビス神》と《センチネル = セベク神》

かれらは強い意志をもって作業場の入り口を護る。その原型は、エデンの入り口を警護する《燃える剣》をもつケルビムである。

2 儀式場の準備

完全な形の神殿を準備することは不可能である。地上の神殿は、アストラル神殿を誘引するための道具立てなので、要点を押さえる形で器材を配置する。次に述べるのは、魔術の神殿において通常配置される主要な器材であるが、総てを揃える必要はない。グループで準備できる範囲で、儀式の場所に適合した器材を準備すれば良い。それが無理な場合は、ただの部屋を何の粉飾もせずに用いる場合もある。

《神殿の配置》



《祭壇》

理想的には、二重立法祭壇を準備する。《黄金の夜明け》式の黒、セフィロト配色、その他の神殿固有の色調等を用いる。しかし、公共施設を借りるときに自前の祭壇を持ち込むのは困

難かもしれない。そのときは普通の机に祭壇覆い（オルター・クロス）をかけて代用する。祭壇は部屋の中央に据える。本儀式においては、南と西に補助祭壇を設けて、石と香炉に水杯（ゴブレット）を置く。

《柱》

ヤキンとボアズの二柱を準備する。できない場合は、想像力で補う。神殿の正面を東とし、東の壁のさらに彼方に、右に白く輝く象牙の柱、右に黒光りする黒檀の柱を視覚化する。

《椅子》

四方位の壁の中央に椅子を置き、司官の座とする。部屋の構造が四方位と対応していないときは、儀式的な東方の壁を最初に定めて、そこから東西南北を規定する。四角形ではない部屋を用いる場合は、適宜その構造に応じて配置する。

守護者の椅子を南東 - 人間、南西 - 獅子、北西 - 鷲、北東 - 牡牛として配置する。

その他の参加者の椅子は四方位に均等になるように配置する。

《四大旗》

該当する方位の壁に下げる。『エゼキエル書』に現れるケルビムを表象する旗、絵画、彫像、或いは記号を表示すれば良い。準備できなかった場合は、参加者全員が鮮やかに視覚化できるように言葉で誘導する。

《小物》

四大を象徴する魔術用具、東 - 剣、南 - 杖、西 - 杯、北 - 塩の皿、等に加え、鈴、キャンドル、香炉や各種魔術武器等を可能な限り準備する。これも代用品を探すことは可能である。

第2章 聖別儀式

1 神殿の設定

参加者は別室で法衣を着用する。（状況により平服で行う場合は、なるべく黒または白系統の模様のないシンプルな服装を用意する。長袖、長パンツ、ロングスカート等のなるべく肉体を覆い隠すものが良い。しかし、奇をてらってはいけない。）

法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

ハイエロファント（H t）が最初に入場し、室内で小五芒星の追儼儀式及び小六芒星の追儼儀式を行う。このとき、竜の式文を用いた小五芒星や、スター・サファイヤによる小六芒星は使用しないこと。

H tの鈴の合図により、他の者は入場を開始する。

杖をもつケルックス（K x）と剣または槍をもつセンチネル（S e）は、扉の外側で左右に別れて立っている。ハイエロファントが入室の合図の鈴を鳴らすと、最初にセンチネルが入室して右側に立ち、続いてケルックスが入室して左側に立つ。他の参加者は、この二人の間をくぐり、ヘゲモン（H g）、ダドウコス（S e）、ハイエレイア（H r）、ストリストリア（S t）、《人間》の守護者（H）、《獅子》の守護者（L）、《鷲》の守護者（F）、《牡牛》の守護者（B）、東側に立つ参列者、南側、西側、北側の順で入室する。

かれらは入室する際にセンチネルに剣を突きつけられ、ケルックスの耳にロジのパスワードを囁かねばならない。ケルックスは正しいパスワードを聞いたなら頷いて、先に行かせる。センチネルは参加者の人数を確認する。

H t：「ケルックスよ、全ての者が正しいパスワードで応ぜしか。」

K x：「全てパスワードを告げし者なり。神殿の首領よ。」

H t：「センチネルよ、参集すべき者は集まりしか。」

S e : 「呼集されし者すべて集いたり。神殿の首領よ。」

H t : 「場をもちたる者は、その姿形を纏うべし。」^{フォーム}

司官は自分の《可視の場》に相応するエジプト神の姿形を纏う。各方位の守護者は、対応するケルブの神聖獣の姿形を纏う。各司官の姿形を確認した後、ハイエロファントは、開始を宣言する。

H t : 「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ I O S - - - ロッジの兄弟姉妹たちよ。
この作業の場に、上位の神殿への接点となる地上の神殿を建立せんがため、われらは集
いたり。ロッジの神殿を開設するため兄弟姉妹の力と形を結集せん。」

P t : 「水と火の浄化」

H t : 「ハイエレイアよ、儀式場を水で浄化せよ。」

ハイエレイアは、補助祭壇のゴブレットを取り上げ、東から始めて南、西、北と神殿の四方にゴブレットの塩水を滴らせる。そのやり方は最初、右手の三本の指を浸し、壁に向かい3回振った後に、その場で右回りに回転し祭壇の方に3回振る。指を動かす軌跡が、それぞれ三角形を構成するように行う。北でこの動作を終了した後、東を通過して自分の座に戻り、ゴブレットを戻した後に、宣言する。

H r : 「われは水をもて浄化した。」

H t : 「ダドウコスよ、儀式場を火で聖別せよ。」

ダドウコスは、補助祭壇の香炉を取り上げ、東から始めて南、西、北と神殿の四方を香炉で薫蒸する。そのやり方は最初、壁に向かい3回振り込んだ後に、その場で右回りに回転し祭壇の方に3回振り込む。香炉を動かす軌跡が、それぞれ三角形を構成するように行う。北でこの動作を終了した後、東を通過して自分の座に戻り、香炉を戻した後に、宣言する。

D d : 「われは火をもて聖別した。」

P t : 「四方位の開放。

参列者は全て東を向いてお立ち下さい。」

ハイエロファントの言葉と動作に合わせカバラ十字を切ります。」

H t : 「四方位を開かん。」

ハイエロファントは、祭壇の方を向いて、《ヴェールを開く》合図を行う。その後、祭壇の剣を取上げ、東に面する。参加者全員がその場で東に面する。

全員（A l l）がハイエロファントに合わせてカバラ十字を切る。

A l l : 「アテュー マルクト ヴェ・ゲブラー ヴェ・ゲドゥラー ルオラーム アーメン」

P t : 「ハイエロファントの描く五芒星により、地平線の守護者、ホルスの四人の子供たちが守護する

空間の四方位が開放されます。」

ハイエロファントは、東に行き、地の召喚の五芒星を描く。それ以外の全員は祭壇に向き直る。

H t : 「 I H V H の御名において、われ東の門を開きたり。 」

ハイエロファントは、魔術剣を水平に保持し、剣尖で円を描きつつ南に行く。地の召喚の五芒星を描く。

H t : 「 A D N I の御名において、われ南の門を開きたり。 」

同じく、西に行き、地の召喚の五芒星を描く。

H t : 「 A H I H の御名において、われ西の門を開きたり。 」

同じく、北に行き、地の召喚の五芒星を描く。

H t : 「 A G L A の御名において、われ北の門を開きたり。 」

同じく、東に行き、東面したまま両手を左右に広げ、言う。

H t : 「 東にラファエル、西にガブリエル、南にミカエル、北にアウリエル。
われらの周りに五芒星は燃え、われらの陰に六芒星が輝く。
われらが上に《真実の光》がひろがれり。 」

全員が東に面し、ハイエロファントに合わせてカバラ十字を切る。

A l l : 「 アテュー マルクト ヴェ・ゲブラー ヴェ・ゲドゥラー ルオラーム アーメン 」

P t : 「 ^{しもん}四門の開放と^{しへき}四壁の設定。

参列者は祭壇を向いてお座り下さい。 」

全員が祭壇の方を向く。ハイエロファントは、、ヘゲモンに命ずる。

H t : 「 空間の君主（貴夫人）よ、風の門を開き、神殿の東壁を設定せよ。 」

ヘゲモンは、力の剣をもち、北東に行き、神殿の東の壁沿いにそれを水平に走らす。東側に座る参加者の前を横切るときは、剣で肩に触れていく。ただし、《牡牛》と《人間》の守護者に触れてはならない。再び、東の中央に戻り、エノク語とヘブル語の名前を振動させながら、剣で、それぞれの五芒星とサインを描く。

H g : 「 E X A R P 」 「 A H I H 」

霊の均衡能動の召喚の五芒星を描き霊のサインを入れる。

H g : 「 O R O I B A H A O Z P I 」 「 I H V H 」

風の召喚の五芒星を描き、中央に宝瓶宮のサインを入れる。

ヘゲモンは、祭壇に向き直り、ハイエロファントに告げた後、剣を額に押し当てる。

H g : 「 風の門を開き、神殿の東壁を設定した。 」

ハイエロファントは、、Eの返事を確認した後、ダドウコスに命ずる。

H t : 「 かくあれかし。炎の君主（貴夫人）よ、火の門を開き、神殿の南壁を設定せよ。 」

ダドウコスは、祭壇から杖（剣）を取り、南東に行き、神殿の南の壁沿いにそれを水平に走らす。南側に座る参加者の前を横切るときは、杖（剣）でその肩に軽く触れる。ただし、《人間》と《獅子》の守護者に触れてはならない。再び、南の中央に戻り、エノク語とヘブル語の名前を振動させながら、杖（剣）で、それぞれの五芒星とサインを描く。

D d : 「 B I T O M 」 「 A H I H 」

霊の均衡能動の召喚の五芒星を描き霊のサインを入れる。

D d : 「 O I P T E A A P E D O C E 」 「 A L H I M 」
火の召喚の五芒星を描き、中央に獅子宮のサインを入れる。

ダドウコスは、祭壇の西に戻りハイエロファントに告げた後、杖（剣）を額に押し当て祭壇に戻る。

D d : 「火の門を開き、神殿の南壁を設定した。」

ハイエロファントは、、Sの返事を確認した後、ハイエレイアに命ずる。

H t : 「かくあれかし。綿津見の君主（貴夫人）よ、水の門を開き、神殿の西壁を設定せよ。」

ハイエレイアは、祭壇から盃を取り、南西に行き、神殿の西の壁沿いにそれを水平に走らす。西側に座る参加者の前を横切るときは、盃に右手の指を浸し、額に液体をつける。ただし、《獅子》と《鷲》の守護者に触れてはならない。再び、西の中央に戻り、エノク語とヘブル語の名前を振動させながら、盃でそれぞれの五芒星とサインを描く。

H r : 「 H C O M A 」 「 A G L A 」
霊の均衡受動の召喚の五芒星を描き霊のサインを入れる。
H r : 「 E M P E H A R S E L G A I O L 」 「 A L 」
水の召喚の五芒星を描き、中央に天蠟宮のサインを入れる。

ハイエレイアは、祭壇の西に戻りハイエロファントに告げた後、盃からひとくち飲み祭壇に戻る。

H r : 「水の門を開き、神殿の西壁を設定した。」

ハイエロファントは、、Wの返事を確認した後、ストリストリアに命ずる。

H t : 「かくあれかし。実りの君主（貴夫人）よ、地の門を開き、神殿の北壁を設定せよ。」

ストリストリアは、塩皿をもち、北西に行き、神殿の北の壁沿いにそれを水平に走らす。北側に座る参加者の前を横切るときは、皿の塩をひとつまみ額に降りかける。ただし、《鷲》と《牡牛》の守護者に触れてはならない。再び、北の中央に戻り、エノク語とヘブル語の名前を振動させながら、皿で、それぞれの五芒星とサインを描く。

S t : 「 N A N T A 」 「 A G L A 」
霊の均衡受動の召喚の五芒星を描き霊のサインを入れる。
S t : 「 E M O R D I A L H E C T E G A 」 「 A D N I 」
地の召喚の五芒星を描き、中央に金牛宮のサインを入れる。

ストリストリアは、祭壇の西に戻りハイエロファントに告げた後、皿の塩をひとつまみ口に入れ祭壇に戻る。

S t : 「地の門を開き、神殿の北壁を設定した。」

ハイエロファントは、、Nの返事を確認する。

H t : 「かくあれかし」

P t : 「四聖獣の宣言」

H t : 「われは四聖獣の守護者を呼ばん」

アケリアン・エイジ
H：「われは《人間》の象徴をまといたり。宝瓶宮の時代において、それは時の始まりから継承されし、友邦団を表象せり。人の子とその造り主の絆を結ばんがために、祭壇にこれを捧げん。」

Hは進み出て、《人間》のタリズマンを置く。

H g：「かくあれかし」

L：「われは《獅子》の象徴をまといたり。愛と勇気の与え手なり。心臓に隠されし、真実の意味を知らしめるために、祭壇にこれを捧げん。」

Lは進み出て、《獅子》のタリズマンを置く。

D d：「かくあれかし」

P t：「われは《鷲》の象徴をまといたり。人の子に言葉を授けし者なり。太陽の目をもつ者よ、

透明なる水晶の視野を与えるため、祭壇にこれを捧げん。」

儀典司官は、進み出て、《鷲》のタリズマンを置く。

H r：「かくあれかし」

B：「われは《牡牛》の象徴をまといたり。力と忍耐の授け手なり。人の子のくびきの下にある地上のすべての獣に代わり、慈悲の心を与えるため、祭壇にこれを捧げん。」

Bは進み出て、《牡牛》のタリズマンを置く。

S t：「かくあれかし」

P t：「聖なる象徴の開示」

ハイエロファントは、祭壇の西からヘゲモンに語りかける。

H t：「東の兄弟（姉妹）よ、汝はこの神殿で特別な役を担いたり。その役割を明かしたまえ。」

H g：「われらの座は、東方より来る光を象徴する座なり。そは《黄金の夜明け》の輝きであり、われらの暗き意識を導く光明なり。この光なしには、大いなる仕事は始まらざる。しからば、神殿におけるわが役割は、光の座を守護し、秩序と調和をもたらすものなり。」

H t：「汝の支えたる門の彼方の光に敬礼せん。」

ハイエロファントは、祭壇の西から東方に片膝をついて跪拝する。

ハイエロファントは、祭壇の北に廻り、ダドウコスに語りかける。

H t：「南の兄弟（姉妹）よ、汝のもちたる聖なる象徴を解き明かしたまえ。」

ダドウコスは、補助祭壇から小さな切石を持ち上げ、言う。

D d：「われらがもちたるものは、粗い切石なり。

われらの今を表す、《不完全なる人間》の象徴である。」

H t：「兄弟（姉妹）よ。われらが見て、その意味を心に刻めるよう、象徴を祭壇に置きたまえ。」

ダドウコスは、象徴の石を中央の祭壇に置き、戻る。

ハイエロファントは、祭壇の東に廻り、ハイレイアに語りかける。

H t：「西の兄弟（姉妹）よ、汝のもちたる聖なる象徴を解き明かしたまえ。」

ハイレイアは、補助祭壇から小さな切石を持ち上げ、言う。

H r：「われがもちたるものは、完全な切石なり。

われらがいずれ到達すべき、《完全なる人間》の象徴である。」

H t：「兄弟（姉妹）よ。われらが見て、その意味を心に刻めるよう、象徴を祭壇に置きたまえ。」

ハイレイアは、象徴の石を中央の祭壇に置き、戻る。

ハイエロファントは、祭壇の南に廻り、ストリストリアに語りかける。

H t：「北の兄弟（姉妹）よ。汝はこの神殿で特別な役を担いたり。その役割を明かしたまえ。」

S t：「われの座は、惑星の諸霊を表象する座なり。そは地母神の助けなしには、大いなる仕事

をなさざるものどもなり。しからば、神殿におけるわが役割は、地母神の御力を受けかれらに伝え、われらの神への愛を捧げるものなり。」

H t：「兄弟（姉妹）よ。惑星の諸霊を代表し、宇宙の光に敬礼されよ。」

ストリストリアは、祭壇の西に進み出、無言で跪き拝礼した後、戻る。

ハイエロファントは、祭壇の西に行き、東を向いて立つ。

H t：「われは宣言する。I O S - - - ロッジの神殿は設定された。

神殿のパスワードは、_____なり。」

A l l：「_____」（パスワードを反復する。）

P t：「地上の神殿は設定された。神聖なるパスワード、神殿の大^{テスセレム・マグナ}言鍵は一同の耳に記憶され

た。これより上位神殿との接合が実施される。」

H t：「この儀式の目的は、光の神殿を建立することにある。今やその地上部分は設定され、聖別された。残る内的神殿の設定を行う必要がある。われらを取り囲むアストラル神殿を視覚化せん。目を閉じ、わが言葉に従いて、強く視覚化されよ。

われらの周りに、石を刻んだ巨大な柱の列が現れ、このロッジを円形に取り囲む。

その柱は丸屋根を支え、フレスコ画とモザイク模様で飾られた天井が見える。

天井から吊るされた青銅のランプから柔らかな光が漏れ、繊細な石の細工が伺える。

われらの足の下には、白と黒の大理石の敷石が、市松模様の床として広がっている。

その中央には、白い大理石の立方体がふたつ重ねて祭壇となり、黄金の祭壇覆いがかけである。これは《贖いの祭壇》である。祭壇の上には、輝ける聖盃が白絹の覆いをかけて置かれている。」

H g：「東には、高い壇の上に玉座が置かれている。これは《栄光の玉座》なり。

玉座の背後には、黄金色、薔薇色、琥珀色のガラスで組まれた窓があり、大天使ラファエルが立っている。ラファエルは、太陽の黄金の光を纏い、手に星の光を携えている。ここは、《調和と癒し》の場なり。」

H r : 「《栄光の玉座》の対極、西側には、小さな玉座があり、玉座の背板には鷲の姿が刻んで

ある。玉座の背後には、青色、緑色、トルコ石色のガラスで組まれた窓が開いている。これは《明瞭な霊視》の座であり、大天使ガブリエルが控える。かれは内観と自我に対する知識をもたらす。」

D d : 「南側には、獅子の姿を刻んだ小さな玉座があり、赤色と黄金色のガラスで組まれた窓が

ある。軍団の長、大天使ミカエルがこの場に控え、《愛と勇気》をもたらす。」

S t : 「北側には、牡牛の姿を刻んだ小さな玉座があり、黒枠に小豆色、オリーブ色、黄色のガ

ラスで組まれた窓がある。大天使ウリエルがこの場に控え、《忍耐と持久》をもたらす。」

H t : 「これらの大天使は、主の僕にして、それぞれの方位の徳目とわれらを仲介する者なり。今、かれらは《贖いの祭壇》に集い、自らを主に捧げたり。

われらも《地上の祭壇》に集い、かれらのひそみにならわん。」

全員が祭壇を取り囲む。

H t : 「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、聖盃に注ぎ込まん。そをもちて、この神殿は光の場とならん。」

全員が手を組み人間の輪のなかに祭壇を包み込む。手を放すことなく次を唱える。

A l l : 「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。

汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

A l l : 「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

全員が手を放し、元の座に戻る。

P t : 「大地への祈り」

H t : 「神殿を閉じる前に、われらより声小さき者たちに代わり、祈りを捧げん」

D d : 「主よ、われらの祈りを聞きたまえ。われらの友邦、汝の被造物、生命のために。

とりわけ、様々な苦痛に苛まれるものたちのために。

過労にて、食料不足にて、狩られて、生命失い苦しむものたちに。

捕獲され不当に扱われるものたちに。

主よ、かれらのために、汝の慈愛の手を求めん。」

H r : 「主よ、われらの祈りを聞きたまえ。声なきものどものために。

山々に、岩に、川の小石に、地下の石炭に、さまざまな鉱石の結晶に。

かれらは沈黙のなかで微睡みたり。われらとは違うサイクルの生命を保持しながら、汝の御手に運ばれ、大地を形造れり。
主よ、汝の僕として、かれらに耐える力を与えたまえ。」

S t : 「主よ、われらの祈りを聞きたまえ。大地の輝きと喜びに、感謝を捧げん。
主の栄光はあまなく地上を満たし、われらに恵みをもたらしたり。
主よ、地母神たる大地に愛と祝福を与えたまえ。」

H g : 「主よ、われらの祈りを聞きたまえ。汝の子たるわれらは、とりわけ祈らん。
汝の愛をわれらの弟たち、エレメンタルと分かちつことを。
かれらもまた汝の真実と光を仰ぎ見たり。
汝の愛はあまなく、全ての生命の序列に分かち与えられる。
かれらにも究極の贈り物を得る機会を与えたまえ、汝の生命の火花を、
われらが不死の靈魂と呼ぶ分光を。」

A l l : 「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

《しばしの沈黙》

第3章 神殿の閉鎖

H t : 「ヘカス ヘカス エステ ベベロイ。I O S - - - ロッジの兄弟姉妹たちよ。
ロッジの神殿を閉鎖するわれを助けよ。」

P t : 「水と火の浄化」

H t : 「ハイレイアよ、神殿を水で浄化せよ。」

ハイレイアが最初と同じ手順で浄化し、告げる。

H r : 「神殿を水で浄化した。」

H t : 「ダドウコスよ、神殿を火で聖別せよ。」

ダドウコスが最初と同じ手順で聖別し、告げる。

S 「神殿を火で聖別した。」

P t : 「諸神への賛辞」

H t : 「この儀式に参集されし、すべての神々、大天使、天使、長老たち、
この儀式に言及されし、すべての惑星霊、ダイモン、四大の生き物たちよ。
汝らの助力に感謝せん。平安のうちに元の場所に戻られよ。
I H S h V H と I H V S h H の御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

P t : 「四門の閉鎖」

ハイエロファントは、祭壇の南に廻りストリストリアに命ずる。

H t : 「実りの君主（貴夫人）よ、神殿の北壁を解放し、地の門を閉じよ。」

ストリストリアは、塩皿をもち、北東に行き、反時計廻りに神殿の北の壁沿いにそれを水平に走らす。

再び、北の中央に戻り、皿でそれぞれの五芒星とサインを描く。

S t : 「N A N T A」「A G L A」

霊の均衡受動の追儼の五芒星を描き霊のサインを入れる。

S t : 「E M O R D I A L H E C T E G A」「A D N I」

地の追儼の五芒星を描き、中央に金牛宮のサインを入れる。

ストリストリアは、祭壇の北に戻りハイエロファントに告げた後、皿の塩をひとつまみ口に入れ祭壇に戻す。

S t : 「神殿の北壁を解放し、地の門を閉じた。」

ハイエロファントは、Nの返事を確認した後、祭壇の東に廻りハイレイアに命ずる。

H t : 「綿津見の君主（貴夫人）よ、神殿の西壁を解放し、水の門を閉じよ。」

ハイレイアは、祭壇から盃を取り、北西に行き、反時計廻りに神殿の西の壁沿いにそれを水平に走らす。

再び、西の中央に戻り、それぞれの五芒星とサインを描く。

H r : 「 H C O M A 」 「 A G L A 」

霊の均衡受動の追儼の五芒星を描き霊のサインを入れる。

H r : 「 E M P E H A R S E L G A I O L 」 「 A L 」

水の追儼の五芒星を描き、中央に天蠟宮のサインを入れる。

ハイエレイアは、祭壇の西に戻りハイエロファントに告げた後、盃からひとくち飲み祭壇に戻す。

H r : 「 神殿の西壁を解放し、水の門を閉じた。 」

ハイエロファントは、、Wの返事を確認した後、祭壇の北に廻りダドウコスに命ずる。

H t : 「 炎の君主（貴夫人）よ、神殿の南壁を解放し、火の門を閉じよ。 」

ダドウコスは、祭壇から杖（剣）を取り、南西に行き、反時計廻りに神殿の南の壁沿いにそれを水平に走らす。

再び、南の中央に戻り、それぞれの五芒星とサインを描く。

D d : 「 B I T O M 」 「 A H I H 」

霊の均衡能動の追儼の五芒星を描き霊のサインを入れる。

D d : 「 O I P T E A A P E D O C E 」 「 A L H I M 」

火の追儼の五芒星を描き、中央に獅子宮のサインを入れる。

ダドウコスは、祭壇の南に戻りハイエロファントに告げた後、杖（剣）を額に押し当て祭壇に戻す。

D d : 「 神殿の南壁を解放し、火の門を閉じた。 」

ハイエロファントは、、Sの返事を確認した後、祭壇の西に廻りヘゲモンに命ずる。

H t : 「 空間の君主（貴夫人）よ、神殿の東壁を解放し、風の門を閉じよ。 」

ヘゲモンは、力の剣をもち、南東に行き、反時計廻りに神殿の東の壁沿いにそれを水平に走らす。

再び、東の中央に戻り、剣でそれぞれの五芒星とサインを描く。

H g : 「 E X A R P 」 「 A H I H 」

霊の均衡能動の追儼の五芒星を描き霊のサインを入れる。

H g : 「 O R O I B A H A O Z P I 」 「 I H V H 」

風の追儼の五芒星を描き、中央に宝瓶宮のサインを入れる。

ヘゲモンは、祭壇の東に行き、ハイエレイアに告げた後、剣を額に押し当てる。

H g : 「 神殿の東壁を解放し、風の門を閉じた。 」

P t : 「 四方位の閉鎖 」

H t : 「 四方位を閉じん。 」

ハイエロファントは、東に面する。参加者全員がその場で東に面する。

全員がハイエロファントに合わせてカバラ十字を切る。

A l l : 「 アテュー マルクト ヴェ・ゲブラー ヴェ・ゲドゥラー ルオラーム アーメン 」

全員が祭壇を向く。

ハイエロファントは、東を通過して北に行き、地の追儼の五芒星を描く。

H t : 「 A G L A の御名において、われは北の門を閉じた。 」

ハイエロファントは、魔術剣を水平に保持し、剣尖で円を描きつつ西に行き、地の追儼の五芒星を描く。

H t : 「 A H I H の御名において、われは西の門を閉じた。 」

同じく、南に行き、地の追儼の五芒星を描く。

H t : 「 A D N I の御名において、われは南の門を閉じた。 」

同じく、東に行き、円を完成させ、地の追儼の五芒星を描く。

H t : 「 I H V H の御名において、われは東の門を閉じた。 」

東面したまま両手を左右に広げ、言う。

H t : 「 東にラファエル、西にガブリエル、南にミカエル、北にアウリエル。

われらの周りに五芒星は燃え、われらの陰に六芒星が輝く。

われらが上に《真実の光》がひろがれり。 」

全員が東を向き、ハイエロファントに合わせてカバラ十字を切る。

A l l : 「 アテエー マルクト ヴェ・ゲブラー ヴェ・ゲドゥラー ルオラーム アーメン 」

ハイエロファントは、祭壇に向き直る。全員が祭壇を向く。

H t : 「 われは宣言する。地上の神殿は閉鎖せり。 」

ハイエロファントは、《ヴェールを閉じる》サインを行う。

A l l : 「 地上の神殿は閉鎖せり。アーメン。 」

P t : 「 参加者退出 」

ヘゲモンが先頭に光の逆周行を開始する。S、W、N、M、L、P、B、東の参加者、南の参加者、西の参加者、北の参加者の順でその後を追ひ、各自が3度周行したら、作業場を出る。最後に残ったハイエロファントは、小六芒星及び小五芒星の追儼儀式を行い、最後に退出する。

もし、神殿の魔術的磁気作用が残存しているようであれば、所要の大儀礼を用いて、完全に追儼する。

法衣を着用している場合は沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を採り、談笑し、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I O S
RITUALE DE
TEMPLUMI DEDICATIONUM

IMPRIMI POTEST: I O S
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MAIVS MCMXC

神殿聖別儀式

C I O S 1994
1994年5月22日 I O S 発行

本文書は、複数のまたは個人の会員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I O S の団内儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I O S の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。